

令和5年度 自己評価シート

幼保連携型認定こども園
東植田こども園

1. 本園の教育・保育目標

生きる力の基礎を育むため、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努める。

- ・ 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ・ 気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ・ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

2. 本園の重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び園の全体的な計画を踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教職員がその内容を確認しながら共通理解を図り、こども園全体の教育・保育を高めるとともに、自身の資質向上に努め、保護者や地域からの理解が得られるよう努める。そして、更に、小学校へのスムーズな接続につなげていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果不十分
D:取り組みが不十分

	取り組み内容	評価
充実 教育・保育の	教育・保育理念に基づき園の全体的な計画を作成し、教職員間で共通理解を図っている。	B
	園の方針や特色を指導計画や保育実践に生かそうとしている。	B
	遊びの中で言葉や文字・数字に興味をもてるようにしている。	B
	身体を動かす機会を十分に確保し、身体を動かす楽しさを味わえるようにしている。	A
	子どもの表現を積極的に受け止め、様々な表現に仕方や感性を豊かにする経験となるようにしている。	B
	栽培活動や調理活動など食育活動を推進している。	B
	配慮が必要な子どもに対して、職員間で共通理解を図り、適切に対応している。	B
	安全管理や防災活動を適切に行っている。	B

	取り組み内容	評価
連携 保護者・地域との	園の教育・保育方針について、保護者のわかりやすく伝えている。	B
	園の教育・保育方針や園の情報をお便りやホームページ等で地域に発信している。	B
	保護者のニーズの把握に努め、教職員間で共通理解を図り、要望や苦情に適切に対応している。	B
	小学校との連絡会や研修会、交流会等の機会を設け、連携に努めている。	B
	地域の行事への参加や世代間交流の機会を積極的に設けている。	C
資質 保育者の	子どもの育ちと人権を第一に考え、保育にあたっている。	B
	まわりの人の良いところを見つけ、感謝する姿勢を持っている。	B
	自分の感情を把握、し受け入れた上で、冷静にコミュニケーションしている。	B
	職務上知り得た個人情報を適切に取り扱っている。	B
	資質向上のために、保育の情報収集や自己研鑽を積極的に行っている。	C

4. 令和5年度を終えるにあたって

3年にわたるコロナ禍に一応の終息を見ることが出来た今年度は、各行事で保護者の人数制限や教育活動の制限をほとんどすることなく展開することが出来た。とはいえ、まだまだ新型コロナやこれまでコロナに抑え込まれていたインフルエンザなどの感染症が、子ども達の間で増加するなど、感染症対策には気の抜けない一年であった。

また、本年は、児童や職員の衛生環境を整えるために、園舎の3か所にあるトイレの改修工事を行い、個室を増やしたり、使い勝手を良くしてトイレトレーニングをしやすくするなどの事業を行った。就学前の子どもにとって、トイレの自立は非常に大切な指導で、子どもの自尊心を傷つけないように個々に応じて丁寧実践していくことが大切であるので、職員にとっては支援しやすく、子どもにとっては使いやすいようにレイアウトを考えて改修した。また、職員がトイレを我慢することがないように、大人の個室を一つ追加した。

今後も、良い保育・教育のためには、良い環境を整えていくように心がけたい。

また、近年は、日本全国的に地震や風水の被害が頻発するようになっているので、来年度は、防災備品の充実や防災教育の充実に努めるため、職員の救命救急研修への取り組みを強化するようしたいと考えている。